

こういう事 知ってますか？

孫 珍 永 (韓国、物理学専攻 博士2年)

日本に来てあれこれもう6回目の夏になりました。考えて見ればいろいろな事がありました。変わらないのは真夏の暑さと今も鳴き続く蟬の声で、変わったのはそれを感じる私の心だけかもしれません。原稿を頼まれてから何を書いたらいいか迷いましたがとりあえず書いてみます。日本で、きっと誰でも知っているだろうと思って話をしていると、実はほとんど知られていなくてびっくりすることが時々あります。それに関して二つ、お話したいと思います。まず、皆さんは韓国の留学生(男の場合)は意外に既婚者が多いことに気が付くと思います。韓国はいまだに戦争中—1950年の韓国戦争—で、1953年の休戦以来冷戦時代が終わってもこの状況が続いています。7月にも南の警告放送を無視して非武装地帯(Demilitarized Zone)を越えて南の方に近づこうとする10人以上の北の兵士たちとのあいだに銃撃戦がありました。この事は日本でも報道された周知の通りです。だから韓国の男は約3年の兵役の義務があってそれを大学在学中か卒業後に必ずしなければなりません。そのうちに自分がたいい行く時期を決めて、その義務が終わったら一人の男として認められて就職や結婚の話もスムーズに進める事ができます。韓国の留学生のほとんどはこの義務が終わった人です。もちろん健康状態がよくない人は免除になりますし、ある人は兵役の義務の代わりにある指定の所で指定の期間を働くとまた免除になることもあります。したがって、留学の準備まで含むと韓国の留学生は日本の学生と比べると大学院の進学が少なくても3年か4年以上は遅くなって20代後半から30代の始めぐらいの学生が多いです。この場を借りて戦争がどうだ、平和がどうだという事は別にして、ただ韓国の留学生の

場合はこのような状況もある事を説明します。

もう一つは、日本の人は、韓国語、あるいは韓国語と日本語の違いについて、比較的無関心であるということです。文法的にかなり近い事、例えば、英語の場合には「私は(I) 愛します(love) あなたを(You)。」ですが、日本語と韓国語は全く同じで「私は(I) あなたを(You) 愛します(love)。」になります。また前のこの雑誌で表さんも指摘しましたが、韓国人には日本語の「助詞」だけ分ければ新聞や本の意味もある程度までは分かります。これは漢字のおかげですが、逆に日本人から韓国語を見れば難しく、その一番の原因はハングルだと思います。同じ漢字文化圏でも日本語での漢字の位置と韓国語での漢字の位置はかなり違います。例えば、日本語で漢字を全部かたかなひらがなで書くとどうなると思いますか？ほとんどの人はとても読みづらく感じるでしょう。しかし、韓国では特にここ何十年間は漢字の重要性が低下し、ハングルだけの表記が中心的で40代以下の人には「ハングル世代」という言葉も使います。学校でも小学校では漢字の授業は全くなくて中学校から週1時間ぐらいの授業しかないです。今はハングル専用の新聞までもできました。もちろん日本の人々が韓国に行ってみればまずほとんどの看板が「ハングル」で書いてある事にきっと気が付くと思います。つまり、韓国語での漢字は一つの補助手段として極端に言えば漢字がなくてもほとんど意味は通じます。このように漢字が今の韓国語では日本語と比べればあまりにも使われていないです。2002年には韓国の釜山でアジア競技大会や日韓共同開催のWorld Cup Soccerが開かれます。皆さんも少しは韓国の事、韓国語の事を勉強してみませんか？



研究室の仲間と (一番左が孫さん)

過去の教え

ネスポロ・マッシモ(イタリア、鉱物学専攻 博士2年)

異邦人の留学生達は日本に来ると困難が多いとよく言われています。例えば、文科系の留学生以外に、普通の留学生は来日してからの最大な困難は言う迄も無く日本語の無能さでしょう。それに加えて、食生活を始め、慣習が異なる上に、日本人と話す機会は余り無いと言うことです。私の場合は肉食主義者(肉食主義者と言うのは肉と魚を一切、卵と乳製品を余り食べないと言う事です)であるので、更に大変だっただろうと思われる方も多いと思いますが、実は日本は私にとっても合います。

1994年の6月にイタリアから短期間派遣で東京大学に参りました。日本語の知識は「さよなら」と「万歳」ぐらいでした。来日してから徐々に新しい言葉を覚え、最初は「有り難う」、二番目は「ごきぶり」(冷房が無いアパートに帰ると毎晩ごきぶり狩りをしなければなりません)。留学生センターでの日本語集中講義に入る為に何度も国際交流室を訪ねて、都河先生に随分迷惑を掛けてしまったと思います。研究の合間に禅道場に通ったり、東京の横丁を探検したりしていました。

1995年4月から国費留学生となり、憧れていた日本語集中講義に漸く入りました。6ヶ月間の毎日、しつこい質問で日本語の先生方々を苦しめた後、同年の10月から鉱物学専攻の博士課程に入学しました。

最初は(「イタリア人?危険!」)と疑惑の目で見られていたかも知れませんが、次第に私の事を分かってくれて、今は誰もイタリア人だと思ってくれません。そればかりか、「彼は草ばかりを食べているの?ビールを嫌いな?」と噂になり、「危険じゃなくて、変わっている!」と思われるかも知れない。先輩の親切な話を聴いても、食物とお酒に関して意見が一致していないので、「難攻不落」と思われている虞があります。

イタリア人である以上珈琲が大好きで、珈琲の作り方に関してうるさくて、日本の珈琲がどうしても満足出来

ませんから、エスプレッソ機械(圧力で作る珈琲)を買って、研究室に置いておきました。少しずつ日本人の学生達が(時々先生方も)試しにきて、エスプレッソ珈琲や豆乳カップッチノや豆乳暖かいココア等がお口に合いました。研究室の扉に貼ってある看板に「大学院研究室」の代わりに「喫茶店」を書いた方が適当だと言われた事があります。

私は子供の頃から日本に就いて関心を持っていますから、他の異邦人に余り会わずに、自分を圧さないで日本の慣習や生き方等を理解するのに尽くしました。その目的に達する為に、二年半程前イタリア語を勉強している日本人の女性に会って、友誼を結びました。敷衍する必要は無いと思いますが、互いに好きになって、この前の3月24日に根津神社(東京大学の近くの素敵な神社)で和風式で結婚しました。家内は理学部の事務室で働いているので、結婚することを決めたら、初めての国際結婚だそうで、事務室の方々は驚いたようです。

この3年間以上の体験に基づいて感じた事の中から一つの意見を述べたいと思います。現在の日本人は、特に若者、西洋に従い過ぎて自国の長所を忘失してしまうと思います。一つの例を挙げてみると、結婚式を決める時に家内はドレスを着たがっていましたが、私は固く反対して和風の式にしました。説得したら、着物等を選ぶ迄苦労しました。特にかつらの選択は非常に大変でしたが、結局無事に結婚式を行いました。この経験の間、家内は日本の伝統に関して興味が復活して今は和風で結婚した事を良かったと考えています。

国際交流と交渉から両者が学ぶ事があるに違いありません。但し、自己を絶対忘失してはいけないと思います。どこの国に行っても同じ結論が出ます。将来を構築する為に過去から学ばなければなりません。生憎、日本も西洋もこの大事な事実を無くしつつあると気がします。

